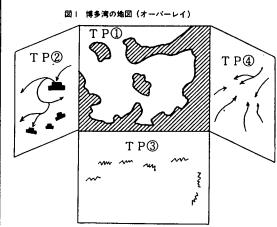


四、まとめ

地理・歴史的内容を扱う場合、TPの合成分解法は発達過程や事象の変化をうまくとらえ、理解を深めるために効果的である。



年	代	モングル・高麗	日本のうごき
1260年	1260年	モングル・高麗に日本を説得し命じる	高麗の使いが大宰府に来る
1268年		斐比ライが即位する	
1271年		日本を元と改める	
1273年		モンゴルの使者が来る	
1274年		日本遠征の詔令が下る	モンゴル・高麗が北九州に来襲

行動・下位目標行動・プロセスフローTPの活用TPを目標TPを目標に当たつてTPを目標に効果的である。TPの活用TPを目標に当たつてTPを目標に効果的である。

TPの活用TPを目標に当たつてTPを目標に効果的である。

TPの活用TPを目標に当たつてTPを目標に効果的である。

TPの活用TPを目標に当たつてTPを目標に効果的である。

TPの活用TPを目標に当たつてTPを目標に効果的である。

(教諭 佐藤憲旺)

□ 考察 □

この事例から学び取る点を端的に表現するならば、授業をしくむ中で生徒の思考する過程を予測してOHPを積極的に活用した点と、シート作成に独自の手法を用い、しかも、提示の時機や方法を慎重に考えていることである。

特に、フィードバック情報の提示が適切であり、学習指導における刺激→反応→確認→強化といった回路の成立を図るために活用した点は、これから授業展開に当たつて、多くの示唆を与えていている。反応分析装置を使うことにより診断を強化し、次のステップの刺激を修正したり、治療的指示や解説を試みることを、次の段階で考へてもよからう。これは同時に、指導の自己評価の場が確立され、次のステップへの要素を正確にとらえることにもつながる。

実践例

音楽科における活用

いわき市立平第五小学校

一、高学年の旋律創作指導の実践
音楽の領域別の好き嫌いの調査をしてみると、「創作がきらい」という児童が案外多いのにびっくりさせられる。

これは今までの指導領域にかたよりがあつたこと、低学年から系統的な創作活動の積み上げが乏しかつたこと、特に即興表現を重点的に学習してこなかつたことなどの原因が考えられる。

そこで、どうしたらこのような児童にも興味を持たせながら、しかも限られた時間の中で効率的な指導ができるだろうかと考え、「OHPを活用した系統的な創作指導」の計画を立て実践してきた。

(一) ねらい

児童の実態に応じて系統的に創作指導を行い、まとまつた旋律（一部形式など）を作ることができるようにする。

(二) 方法

○ 音楽の時間の中での年間を通して系統的に指導する。

○ OHPを利用して、効率的に指導する。

○ 指導対象学年は五、六年とし、音楽クラブなどを随時指導する。

○ 第一次(リズムカード作り)資料(一)
○ 第二次(聴音記譜)
○ 第三次(統合の節作り)
○ 第四次(統四小節)
○ 第五次(言葉に合った八小節)
○ 第六次(歌詞の節作り)
○ 第七次(良葉に合ったリズム)
○ 第八次(良の形)
○ 第九次(良の形式)
○ 第十次(良の形)
○ 第十次(創律創作)
○ 第十次(創作の仕上げ)

OHPで活用したシートの例

<p>◆シート2 良い旋律さがし</p> <p>◎たたみかけるようにぐんぐん盛り上がる感じ</p> <p>◎ゆったりとして終わる</p>	<p>◆シート1 音葉に合ったリズム</p> <p>ラジオは さ け ぶ い ち に さん</p> <p>がっこうがえりの お か ば さ な か よ く な ら ん で か え 里 ま し ょ う</p>
----------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------